

1 畑の準備

土作り

種まきの2週間前までに苦土石灰、堆肥をまきます。しっかりと土壌混和をしておきましょう。

※連作障害が起こるので連作は避けましょう。出来れば3～4年の休耕を含む輪作(毎年マメ科、ナス科、ウリ科、アブラナ科など違うものを作る)をしましょう。

- ・苦土石灰：
1㎡あたり100～200g
- ・JAファーム有機堆肥：
1㎡あたり2～3kg



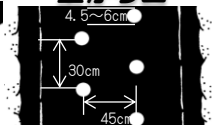
元肥・うね立て・マルチ張

種まきの1週間前までに元肥をまき、うね立てを行います。マルチを張る場合はマルチを張り、穴の無いものを使用する場合は、穴を開けます。※マルチを張ると収穫が早まり、中耕除草の省力化にもなるので、マルチを張るのがオススメです。

マルチ使用時



上から図

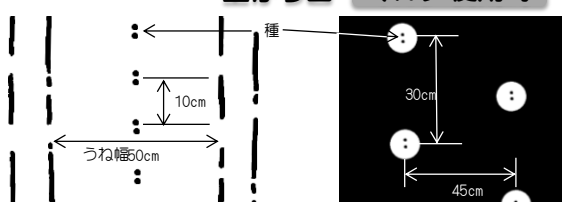


- ・JAファームやさいの元肥：1㎡あたり65～90g(ひと握り約40～50g)
- ・ダイコン・モロコシ用穴あきマルチ：95cm×50m(45×30)2条チドリ

2 種まき

10cm間隔(株間)で種をまきます。マルチを使用する場合は、マルチの穴に種をまきます。

上から図 マルチ使用時



発芽を良くするため、一晩水に浸ける。

覆土ワンポイント！
種の2倍くらいの厚さで土をかけましょう。



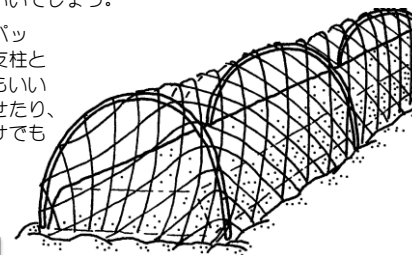
※まき穴は、空缶などで作ると便利です。

種まきワンポイント！
種をまく時は一ヶ所に2粒ずつまきましよう。

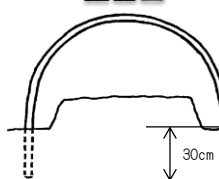
3 防鳥網

種をまいて栽培する場合は、カラスやハトなどにより、鳥害を受ける恐れがあるので防鳥網を張りましよう。アーチ支柱に防鳥網を張る方式がオススメです。アーチ支柱は8φの長さ1800mmくらいを使用するといいでしよう。

ネットの裾は、バツカー、紐などで支柱とネットを留めてもいいですが、土を被せたり、重りを乗せるだけでもOKです！



正面図



※ネットを張るときは絡まらないように気をつけましよう！

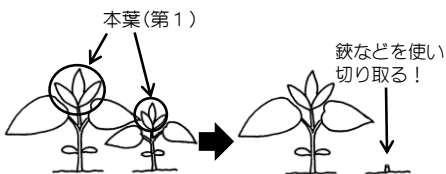
アーチ支柱は30cmくらい埋めましよう！

防鳥網ワンポイント！
本葉が出てきたら防鳥網は外してOKです。

4 間引き

第1～第2本葉が出始める頃(12～15cmくらい)、順次間引きをする。種を1ヶ所に2粒ずつまいたので、2つとも順調に育っているものを1つ間引きます。間引きの際は引き抜くと隣の株が傷むので根元から切り取るようにするといいでしよう。

※本葉は3枚セットの葉です。



間引きワンポイント！

2つとも発芽しない種がある場所は、間引く予定のものを、根を傷めないように持ってきて植えると、その場所も上手く利用できます。(ただし、普通に間引きをする場合は上記のように、切り取った方が根を傷めません。)

5 土寄せ

株の根元の土が凹んできたら、株が倒れるのを防ぐとともに、中耕除草をかねて土寄せをします。



マルチ使用時

マルチ栽培の場合は、土寄せはしません。

6 防除

防除は予防が大切なので定期的に行いましよう。開花最盛期だと実害が発生することがあるので、開花最盛期は避け、開花最盛期後に防除する場合は、開花最盛期から7～10日後くらいに防除しましよう。

主な病害虫

- ・アブラムシ
幼苗期から開花頃にかけて。アブラムシはウイルス病を媒介するので、気をつけましよう。
- ・カメムシ
4月頃から発生します。莢が吸汁されると実の入りが悪くなります。新芽が加害されると茎が曲がったり、新葉が奇形になったり、葉に穴が開くなどの症状があらわれます。生育も悪くなります。
- ・タネバエ
幼虫が種子や根を食べます。種まきの前に粒剤(粒状の殺虫剤)をまいて、土壌混和するのがオススメです。※殺虫剤は使用方法をよく読んで正しく使いましよう。

7 収穫

収穫適期

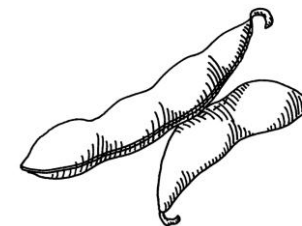
開花後30～40日。
収穫適期は短いので、1週間くらいで収穫する。

収穫方法

収穫は株ごと抜き取るか、刈り取るようにしましよう。

収穫ワンポイント！

莢温の低い早朝のうちに収穫をしましよう。



科名	マメ科
原産地	中国
連作障害	あり(3～4年)